

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 23日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22500964

研究課題名（和文） 近代ドイツと日本の医学交流 産科医・女医の誕生・伝染病予防をめぐって

研究課題名（英文） Medical Exchanges between Modern German and Japan: On the Births of Obstetrics and Women Doctors, and the Prevention of Contagious Diseases

研究代表者

石原あえか（Aeka ISHIHARA）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：80317289

研究成果の概要（和文）：

18・19世紀における日独医学交流、特に相互影響関係や差異を明らかにした。ヴィクトリア女王夫妻を中心とする英独医学関係も参考に、視野の拡大に努めた。初年度は日独シーボルト家の女医の系譜についてまとめ、次年度は「産科医」や「解剖図」をキーワードに、近代英独医学史を扱う選書を刊行した。最終年度は医師兼画家のカールスについて（眞岩）、文学作品における畸形を手掛かりに、見世物から医学標本への変遷（横山）、また結核や梅毒などの伝染病と医学標本（石原）など、個別に成果を公表した。

研究成果の概要（英文）：

The study has focused on the medical exchanges between Germany and Japan during the 18th and 19th centuries, delineating the reciprocal influences and differences. The study, on its process, included the Anglo-German medical exchanges in the 19th century based on Queen Victoria's royal family and its tie to German medical scene for the research comparison. Specific themes of each year are: (first year) the biological history of women doctors of the Siebolds in Japan and Germany; (second year) the histories of obstetrics and gynecology, of anatomy in modern Germany and England, focusing on anatomical charts; (third year) and contagious diseases such as tuberculosis and syphilis, and the usage of their mouldages for medical education (by Ishihara), Goethe and Ocken's influence on Carus, who was a doctor-painter (by Mano), and deformity and its representation in Victorian literature and medical periodicals (by Yokoyama). The results of the study were published as a book, and academic articles, and presented at numerous academic conferences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：科学社会学・科学技術史

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：近代医学史、女医、近代産科医、解剖図、種痘、皮膚病、シーボルト、フーフエラント、ハンター、エレファントマン（メリック）、オーケン、カールス、

1. 研究開始当初の背景

研究代表者・石原は、これまでドイツの詩人にして自然研究者であるゲーテと自然科学の関係を中心に研究を進めてきた。他方、ゲーテはローダー、シュタルクおよび当時の産科学の権威達や江戸の蘭学医に影響を与えたフーフエラントなどと交流があった。彼らはイエーナ大学の教授で、同時に当時のドイツ医学の基礎を形成する上でも大きな役割を果たした。たとえばお産椅子の改良をはじめとする産科技術の発展、種痘（人痘法・牛痘法）の普及と伝染病隔離病棟の設立などは、彼らの功績である。後にゲーテは、年下のロマン派の画家兼産科医のカールスを高く評価するようになるが、このカールスとゲーテの関係も僅かな例外を除いては日本にほとんど紹介されておらず、自然科学者・医師としてのカールスについての研究はほぼ皆無だった。

同時にゲーテと縁のあったローダー、シュタルク、カールスの専門が産科医であったことも注目される。近代医学史における産婆の追放と男性産婦人科医の誕生は、ジェンダー研究の面でも非常に興味深い領域だった。

ゲーテが解剖学を師事したローダーの弟子には、日本とも関連の深いヴュルツブルクの医学名門出身の J. B. v. シーボルト (P. F. v. シーボルトの伯父) が居た。シーボルトの娘・楠本稲が日本で西欧式医学を修めた最初の女医であることはよく知られているが、彼女の大伯母にあたるレギーナ・ヨゼファがドイツ最初の女性産科名誉博士号取得者、その娘シャルロッテ・ハイデンライヒが最初の女性産科博士で宮廷産科医であるが、当時シーボルト家の女医達に関する包括的研究は日独ともに存在していなかった。

どれもゲーテを起点とした興味深い研究対象ではあるものの、個人研究の限界を感じていた。さらに当時のドイツ医学と相互影響および相互比較対象となるイギリス医学に関心をもつ研究者の協力も必要だった。このため緊密な情報交換がとりやすい少人数の研究グループを形成して、本研究課題に取り組みたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究は 18・19 世紀における日独医学交流に注目し、その相互影響関係および差異に

ついて明らかにすることを目的とした。

研究開始の時点では、包括的な近代日本=ドイツ間の文化・医学交流の研究は存在しなかった。そこで、主な研究テーマを(1)イエーナ大学医学部（「近代産科医」の活動、自然科学芸術としての「解剖図」）およびロマン主義思想の影響を受けた医師オーケンとカールス、(2)ヴュルツブルクのシーボルト家と日独両国における近代的教育システムにおける「女医の誕生」、(3)フーフエラントからコッホに至る伝染病予防対策の計 3 点に絞り、各テーマの現在に至る文化的・科学史的背景を総合的に検証し、再構築することにした。

また本研究は、美術論・独文学・英文学・生物学史・医学史・ジェンダー論など複数領域を同時に扱うので、研究対象を多角的な視点から捉えることを常に意識した。

3. 研究の方法

初年度は研究者の相互情報提供、およびドイツ国内での文献収集・分析に力を置いた。まず当時のドイツにおける医学拠点イエーナ、ヴュルツブルク、ベルリンの三都市に絞り、そこで活躍した医師に注目しながら、日本への影響関係等を文化・芸術と自然科学の両方の視野から分析・検討を加えていった。定期的な会合を持ち、国内では西尾の岩瀬文庫等への共同調査も行った。長期休暇中は各自がアーカイブ調査を行ったが、なかでも小川を通じて、イギリスの産科および独英医学交流に関する英文の文献情報を得ることができたのは大きな収穫だった。

次年度は小川に代わって、横山を加え、一次文献の分析結果をもとに、最新の研究成果等を踏まえ、各メンバーの研究対象との相互関連性を明確にしていった。カールスのイギリス紀行などの原文と翻訳比較など、テキスト分析も含む。このうち「近代産科」および「解剖図」をキーワードに、3 名の研究成果を中間報告として 1 冊の選書にまとめた。

最終年度には当初もう 1 冊、共著の刊行を計画していたが、時間的制約の問題や各自の研究対象が異なる点から、書籍として 1 冊にまとめることは困難と判断し、緩やかな連携をとりながら、各自でこれまでの研究成果を発表する形をとることにした。

4. 研究成果

初年度の成果としては、小川の提供による英文資料を踏まえ、石原・眞岩の連名で、日独シーボルト家の女医についてまとめた紀要論文を発表した。また石原は、北里記念室や東京女子医大で調査した資料をもとに、1900年代前半にドイツ留学した日本人女医2名についてまとめ、ドイツ・ベルリンでドイツ語による研究発表を行った。この発表にさらなる調査を加え、翌年には、ドイツ語論文として公表した。

2年度は産科・解剖図といった共通の研究キーワードが揃ってきたことから、中間成果報告の位置づけで、近代イギリス・ドイツ産科の歴史を研究メンバー全員（3名）が執筆した選書の形でまとめ、刊行した（査読有）。

最終年度には、特にゲーテを起点とし、19世紀後半から20世紀初頭までの日独間医学交流について、明治期ドイツに留学した初期の医学者を中心にまとめた単著を石原が刊行した。なおその後の調査で、新たに皮膚科における日独医学交流が認められたので、それについては別途2本の日本語論文にまとめた。その近代皮膚科の関わりから、2013年3月に、石原と横山は別の科研コロキウム（基盤研究B、研究代表者：鍛冶哲郎）に参加、それぞれ発表を行った。具体的には、石原は日本における皮膚科の教材標本と制作者の系譜について、また横山は見世物から医学標本への変遷あるいは畸形の問題について、実在したプロテウス症候群患者J.メリックを主人公とする『エレファントマン』を用いて、文化的側面からアプローチを試みた。

他方、眞岩は初年度から携わっていたドイツ人医師で画家のカールスとオーケンおよびゲーテとの影響関連を論文にまとめた。

以上、共著としては選書のみで刊行となったが、相互により刺激を受けつつ、それぞれが別途複数の論文や著書、発表の形で成果を公表することができ、当初の目標は十分に達せられたと言える。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- 1) 石原あえか・眞岩啓子: 「ヴェルツブルクのシーボルト家 日独で女医を輩出した医学者系」、『慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学』47 (2011), pp.189-215.

- 2) Aeka ISHIHARA: *Japanische Medizinerinnen in Deutschland 1890-1905.* Mizuko TAKAHASHI und Tada URATA. In: 『日吉紀要 ドイツ語ドイツ文学』49 (2012), pp. 75-101. (ドイツ語)

- 3) 石原あえか: 「日本におけるムラージュ技師の系譜 ―ゲーテを起点とする近代日独医学交流補遺」、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要『言語・情報・テキスト』19 (2012), pp.1-12.

- 4) 眞岩啓子: 「C.G.カールス『動物解剖学教本』―オーケン―ゲーテ」、上智大学ドイツ文学会『上智大学論集』, 49 (2013), pp.79-101.

- 5) 石原あえか: 「科学と芸術のはざまで ―ゲーテ時代の大学絵画教師からムラージュ技師まで」、日本独文学会『ドイツ文学』, 146 (2013), pp.88-102. (査読あり)

〔学会発表〕（計3件）

- 1) 2010年11月25日: Aeka ISHIHARA: *Japanische Medizinerinnen in Deutschland von 1890-1905.* TAKAHASHI Mizuko und URATA Tada. 招待講演 Ogai-Vortrag. フンボルト大学附属森鷗外記念館(ドイツ・ベルリン)

- 2) 2013年3月18日: 石原あえか: 「日本におけるムラージュ技師の系譜 伊藤有とその弟子たち」、研究コロキウム「医学と芸術 近代皮膚科における教材と日独学術交流」(科研費基盤研究B、研究代表者: 鍛冶哲郎)「科学の知と文学・芸術の想像力 ドイツ語圏世紀転換期の文化についての総合的研究」(研究分担者兼務)

- 3) 2013年3月18日: 横山千晶: 「エレファントマンの左手」、同上の研究コロキウム「医学と芸術 近代皮膚科における教材と日独学術交流」(科研費基盤研究B、代表者: 鍛冶哲郎、招待発表)

〔図書〕（計2件）

- 1) 石原あえか編 (横山千晶・眞岩啓子と計3名の共著): 『産む身体を描く ドイツ・イギリスの近代産科医と解剖図』慶應義塾大学教養研究センター選書11, 2012年 (*査読有)

- 2) 石原あえか (単著): 『ドクトルたちの奮闘記 ゲーテが導く日独医学交流』慶應義塾大学出版会 2012年

6. 研究組織

(1)研究代表者

石原あえか (Aeka ISHIHARA)
慶應義塾大学商学部教授、2012年度より
東京大学大学院総合文化研究科准教授
研究者番号：80317289

(2)研究分担者

小川真里子 (Mariko OGAWA)
*2010年度のみ
三重大学人文学部教授
研究者番号：00185513

横山千晶 (Chiaki YOKOYAMA)
*2011年度以降
慶應義塾大学法学部教授
研究者番号：60220571

(3)連携研究者

なし